



はぐくみ

89号

平成30年11月発行

編集／特定非営利活動法人 東京都公立保育園研究会 ☎ 03-3371-8057 <http://www.token-2.or.jp/> ●発行者／寺岡康子

お外であそぼう！



中川 奈緒美



子どもは、外が好きです。戸外には、木漏れ日、空気の流れ、虫の羽音、雨上がりの香りなど、五感に響く刺激が溢れているからでしょうか。土に水を混ぜるとドロドロになる、指先で草や花の実をつぶすと色が滲み出るなど、こちらの働きかけに七変化する自然が探究心をくすぐるからでしょうか。時にはぶつかり、時には一緒に笑う、他の子どもがいるからでしょうか。

「感覚統合理論^(※)」では、幼児子どもは常に自分の感覚を駆使し、感覚を刺激することをたいへん好むといわれています。

例えば、土、草地、傾斜など様々な所を歩きたがる時期は、地面の形状に合わせたバランスのとおり方や、身体部位の力の入れ方という感覚の駆使を

楽しんでいきます。自発的な楽しい行為が「遊び」なので、歩くことも遊びです。つまり、子どもは遊びながら発達します。そして戸外には、遊びがより楽しくなる、思う存分感覚を駆使できる刺激が溢れているのです。

私たちのNPO法人は、乳幼児親子が集まる外遊び場を運営していますが、「子どもが発達する遊ばせ方を教えてください」としばしば聞かれます。そういう時は、「自由に自然に触ることができ、他の子どもも遊んでいる所に連れていけば、教えなくても、子どもは遊び始めます。その子が楽しいことが、今、その子の発達に必要な遊びです」と伝えます。そして、「大人に気をつけてほしいのは、子どもの遊びを邪魔しないことです」



とも。

例えば、手で土をこねて、こもりとカタチを作って遊んでいる子に、「プリン？ カップを使うとキレイよ」と、カップの使い方を教えることは邪魔です。子どもが感じて、発見し、発想する「粋」は、大人よりも広いことを忘れてはいけません。

「これは何？」と、子どもの頭の中で広がるイメージを大人の粋で知ろうとする、言葉の説明を求めるとも、時には邪魔です。そうではなく、子どもの隣と一緒に土に触ってみてください。土はキメが細かくなめらかで気持ちいい。そして、感じたままに、「気持ちいい」と呟く。子どもはチャリと大人を見てから、「これいいよ」と、丹精込めて整えた自分の土をおすそ分けしてくれます。

「外で遊ぶと、子育てストレスがない」という声もよく聞きます。外遊びの場では、大人が子どもに教えるような上下関係ではなく、子どもと大人が共に楽しむ「水平な関係」になれることも、その理由の一つでしょう。

発達途上の子どもの感覚は大人とは違います。子どもとの暮らしは「異文化交流」のようなものですから、大人が子どもの行動をコントロールしようとする、子どもは反発するか、大人の顔色をうかがうようになります。外で遊びながら、わが子は、今、何におもしろがっているかに気付き一緒に楽しんでみる。するといつの間にか子どもとの暮らし方がわかるようになっていきます。外遊びをきっかけに、子どもが楽しむことに気付き、大人も一緒に楽しむ。そんな子育てのコツをつかめるといいですね。

中川 奈緒美／ながかわ・なおみ
NPO法人「あそびっこネットワーク」代表。出産を機に子どもや地域の子育て支援活動を始める。2003年、前身団体を立ち上げ、2011年にNPO法人化。現在は、様々なあそび場施設を練馬区内で運営する。発行媒体『たのしくあそんでこどもはそだつ0.1.2.3』^(※)他。

※作業療法士Ayres,A.J.がまとめたもの。発達障害のある子等へのリハビリテーションの一つとして提唱された。自然環境や動物とのかかわりなどが発達に重要な役割を持っているという考え方。

※問い合わせ先=NPO法人あそびっこネットワーク <http://asobikkonet.com/>